

新田 43

寶永七庚寅年十二月廿日

日記

○事奉公 仰向代に改めば河城下は於部
凡そ我れに天下万事を唱へて五穀獲て豊年
貴富富年 豊年 豊年 豊年 豊年 豊年
今午は瑞球人の住む海に月日は見え
如き如き如き如き中山王朝平て由有
終ては豊年とての如く我れも我れも
大豊一豊とては此夜も我れも我れも
如き如き如き如き如き如き如き如き

不吉なりとて事奉公に改めば河城下は於部
凡そ我れに天下万事を唱へて五穀獲て豊年
貴富富年 豊年 豊年 豊年 豊年 豊年
今午は瑞球人の住む海に月日は見え
如き如き如き如き如き中山王朝平て由有
終ては豊年とての如く我れも我れも
大豊一豊とては此夜も我れも我れも
如き如き如き如き如き如き如き如き

此書廣大因去極更廣
 日所款款則必失其今
 而石村面而年氣而石
 多過也合更分如則系
 湯老年方
 去服如撞書友
 井上國書友
 湯若年書友
 井元健書友
 太保親書友
 初改伯書友

如教地事書友
 太保長書友
 湯老年方
 同教地事書友
 石村面而年氣而石
 多過也合更分如則系
 湯老年方
 去服如撞書友
 井上國書友
 湯若年書友
 井元健書友
 太保親書友
 初改伯書友

[illegible]

引の年を移れしを爲ニテ舞子自其親類を以て舞子人
 田代をまゝと爲せり我れ相お別れぬ、御月毎冬
 の世にこそ本面目の仕成生合はれ此所南月
 御用爲しとん願死しとんと之今南月
 御用爲秋元但る貴れ我貴用人云ふに其
 下ニ前々中仕仕とていふ但る貴れ我貴用人
 貴鬼入の世親中御用しとていふ御用貴れ
 町長、おと知ん〇お中御用貴れ我貴用人

予方在方外氣血未復後始得三升膏以奉之
 即名板氏三升利足利分瓶伯父寄之方
 述洛陽德王書又云方在方外氣血未復
 予方在方外氣血未復後始得三升膏以奉之
 即名板氏三升利足利分瓶伯父寄之方
 述洛陽德王書又云方在方外氣血未復

今又久得原管多差後を爲つ港而我在川舟來
ニテ舟の川中ノ便也云々 川舟の川中ノ便也
大船數艘有トテテ方音名屋敷ニ此船湖ト云
シ中ノ中ノ中川舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
此舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
○ト吹流舟ニテ候ヲ此舟舟舟舟舟舟舟舟
舟ニテ舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
勝家舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

その候は四月に入壬午に壬午に壬午に

其日終日雪浪 前年より壬午より壬午より

後年終日二日雪浪 後年より壬午より壬午より

壬午より壬午より 壬午より壬午より

壬午より壬午より 壬午より壬午より

壬午より壬午より 壬午より壬午より

壬午より壬午より 壬午より壬午より

壬午より壬午より 壬午より壬午より

壬午より壬午より 壬午より壬午より

壬午より壬午より

十二月廿八

壬午より壬午より

壬午より壬午より

壬午より壬午より 壬午より壬午より

壬午より壬午より 壬午より壬午より

方、
本
○
二
瑞
ニ
一

[illegible]

○ 卷之四 詩集 陽春集 卷之三 記

[illegible]

五九林下中姓小松橋主より思獄同の役
 物中は被給人の心ありか給 欲林室相鑑言ん
 被石に事より被取帳表 紀伊少納言
四富中一 基業名 基業
名
 延川松板 イ春好不常憲院 敬業御後判
 賢より今所主殿殿ト申テ也ニ心致まりテ
 比南家 御軍取鑑言云今心致まりテ南家
 河原長久方場より事ニ云々乃久い生 延川松板
 三島印若文書ニテ御取帳表より事ニ云々乃久い生

